

# 将来の生き方を考え、目標に向かって常に学ぶ意識を持つ生徒の育成 ー基礎的・汎用的能力を育むキャリアノートの活用を通してー

高度学校教育実践専攻  
教職実践力高度化コース  
千種 晶子

実習責任教員 藤井 伊佐子  
実習指導教員 西村 公孝

キーワード: キャリア教育, 身につけたい力, 学びの意識, 学習意欲の向上

## 第1章 実践研究課題の設定と計画

### 第1節 問題意識

これまでの教職経験の中で度々聞いた「なぜ勉強するのか」という生徒の問いに対して、適切な返答が出来ていたかどうか疑問である。学習意欲の向上を目指すために、また夢や目標を持ちそれに向かって努力する生徒を育成するために、効果的なキャリア教育の実践について研究したいという思いを強く持つようになった。

### 第2節 実習校について

実習校がある地域は、徳島県東部に位置し、県下有数の工場地帯・近郊住宅地・多くの商業施設等の特徴があり、県内で数少ない人口増の傾向が見られる町である。地域や保護者の教育に対する関心は高い。

毎年3学期に実施される学校評価アンケートの質問項目の中のキャリア教育・進路指導に関する評価項目からは、教職員はキャリア教育・進路指導に関して十分な取組を行っているという意識があるが、生徒・保護者の意識の中に反映されにくい面があるという課題があった。

教職員への記述式アンケートからは、生徒の良さとして「大多数の生徒が学習・学校行事・部活動に積極的に取り組む」「人なつっこい」、課題として「自分から行動に移すことが苦手」「挨拶ができない」等が挙げられた。また生徒に身につけさせたい力として「コミュニケーション

力」「自ら考え行動する力」が多数の教職員から挙げられた。

### 第3節 実践研究課題の設定の理由

実習校の学校目標は4項目で構成されており、キャリア教育を通して育成すべき基礎的・汎用的能力と一致している。キャリア教育を実習校で推進することは、学校目標の達成につながっている。また、先行き不透明な社会を生きていくことになる生徒にとって、社会生活の中でも現状にとどまらず学ぶ姿勢が大事であり、学び続け新しいことを発見し実践する社会人として自己実現・社会貢献できるような生徒を育成したい。そこで、「常に学ぶ意識」を社会に出る前の学校教育の場で身につけさせたいと考えた。中学生に「なりたい自分のイメージ」をつかませ、「なりたい自分になるために、どんな力を身につけたらいいか」「その力を身につけるために、どのようなことに取り組んだらいいのか」を考えさせる。そのように具体的に自分で決めさせることにより、学習意欲が向上する基盤が作られると考えた。そして、生徒が考えたことがその場限りにならないよう、普段から意識して取り組むことができる「キャリアノート」の導入を考えた。

## 第2章 先行研究および先行実践事例の分析

### 第1節 先行研究分析

村川・三橋（2014）が共同で研究・開発した「知の総合化ノート」は、毎日の学校生活の中で学びを意識できるツールである。あらかじめ身につけたい力を決めておき、各教科の授業、学校行事、部活動等で学んだことを付箋に記していき、学びを記入した付箋を身につけたい力に関連づけ分析・整理するというプロセスを通して、学びを関連付け、総合的に蓄積・活用できるとある。また、三橋（2014）によると、知の総合化ノートを実践することによって「『身につけたい力』を常に意識するので、学校の学びだけでなく生活全体が学力を育てる場になる」「『身につけたい力』という視点で世の中全てを見るので、世の中全てが学びになる」とある。

### 第2節 先行実践事例

高知県嶺北中学校で取り組まれている

「MIRAI ノート」は、「知の総合化ノート」を参考に行っている。自分自身と対話しながら、学校と社会との接続を意識し、将来の夢の実現につなげるツールである、としている。東京都板橋区立中台小学校の取組では、「なりたい自分カード」を使って、1年間でなりたい自分の像を設定し、それを達成するためのめあてを一ヶ月ごとに更新していくという取組があった。そして、「なりたい自分カード」や特別活動で活用したワークシート・キャリア教育に関わるワークシート等を綴じる「みらいファイル」を作成し、将来のことを考えたり自分の今までを振り返ったりするとき等、自己理解を深めたり広げたりすることに活用する、とあった。

## 第3章 実践研究の計画と実際

### 第1節 実践計画とねらい

「キャリアノート」の活用を核とし、生徒一人一人が将来の夢や目標を持ち、目標達成のために必要な力（基礎的・汎用的能力を基準に）と、力を身につけるための具体的な取組について考え学校生活の中で学びの中にそれを意識する、という活動を段階的に計画し、進めていく。そして、振り返りを行うことで身についた力を実感し、次の学校生活で活かしたりさらに深めたりすることによって、基礎的・汎用的能力の育成を図る。

評価は、基礎的・汎用的能力を測るアンケートをキャリアノート活用の前後で実施し、変容を見る。また、キャリアノートの実践内容について生徒アンケートを9月に実施し、生徒の意識や感想を調査し、成果と課題を考察する。

### 第2節 基礎的汎用的能力を測るアンケート分析

生徒と教職員に行ったアンケート結果により以下のことが分かった。

- ・生徒は特に人間関係・社会形成能力が高いと考え、それ以外の能力についても大半が身につけていると考えている。一方、教職員については生徒が考えるほどの能力は備わっていないという見方であり、意識の大きなずれが生じている。
- ・生徒は、特に他者の個性を理解する力、チームワークについて力がついていると考えている。
- ・教職員は、特にコミュニケーションスキル・自己管理能力・課題発見能力・実行力・学ぶこと・働くことの意義や役割の理解において、力が弱いと感じている。

### 第3節 キャリアノート活用にむけた取組

#### 1 自己理解

「自分を知る、友人を知る」

(1年生 平成31年3月実施)

事前に身近な人に自分について書いてもらうワークシートを用意した。授業では、自分のことについて書いたワークシートを基にクイズ形式のゲームを行った。グループで互いの良さを書き合っ、他者から見た自分の良さを知るきっかけとした。

#### 2 目標設定

「目標設定をしよう～なりたい自分を考える～」

(2年生 平成31年4月11日実施)

自己理解の授業で知った自分の良さ等を参考に、「なりたい自分」をイメージさせた。そして、「なりたい自分」になるためにどのような力が必要かを考えさせた。教職員アンケートで挙げた「コミュニケーション力」「自ら考え行動する力」と自分自身で設定する身につけたい力のそれぞれに対する具体的な手立てを設定させた。

#### 3 日々の学びの記録とフィードバック

「学びを記録しよう～普段の学びを意識する～」

(2年生 平成31年4月26日実施)

「学びを意識すること」「自分の学びや気づきを記録すること」の大切さを説明し、キャリアノートの活用の手順について説明した。

生徒はその日一番の学びを身につけたい力と結びつけながら付箋に記入し、学びのシートにまとめていく。週末に学びのシートを綴じたキャリアノートを提出し、筆者がフィードバックとなるコメントを記入し返却した。

＜筆者がコメントを書く時に意識した事項＞

(ア)生徒が書いた内容を否定せずに受け止め、認め、ほめる→勇気づけ

(イ)寄りそう姿勢を見せる

(ウ)学びの身につけたい力へのつながりを意識させる

(エ)学びのつながり(教科間・行事間や教科と行事の間等)を意識させる

(オ)学びが普段の生活や将来の生活に結びついていることを意識させる

#### 4 学びの構造化

「学びをつなげよう～学びをまとめ、振り返る～」

(2年生 令和元年6月21日実施)

付箋をまとめ構造化する手順を説明した。

3つの身につけたい力ごとに付箋を構造化するつながりシートを用意した。生徒は、記入し蓄積した付箋を一枚ずつ見直し、記入した学びが3つの身につけたい力のどれに結びついた学びかを考え、それぞれのつながりシートに付箋を振り分けた。そして、内容の似た付箋をグループにし、概念化する。グループ同士で関連すると思ったものを線で結び、なぜ関連すると思ったのか理由も書いた。構造化はキャリアノート活用の期間中2回実施した。そして、構造化を行ったつながりシートを使い、構造化のまとめとして「自分ができたこと」を文章化させる活動を、ワークシートを用いて行った。

### 第4節 「働く」ことについての授業実践～職場体験学習に向けて～

「『働く』ことについて、考える～職場体験学習に向けて～」

(2年生 令和元年7月10日実施)

事前に職業に関するアンケートを実施し、

授業でアンケート結果を発表しながら働くことの意義を考えさせ、自分の将来や職業について興味関心を高めさせた。

## 第5節 キャリア教育通信の作成

キャリア教育通信は教職員向けと2学年保護者向けの2種類を発行した。キャリア教育の情報を提供し、「キャリアノート」等の活動の目的・意義を伝達すること等をねらいとした。

## 第6節 キャリアカウンセリング校内研修

平成30年度キャリア教育指導者養成研修に参加した際の研修内容を伝達という形で教職員対象とした研修を行った。キャリアカウンセリングの意義を伝え、キャリアカウンセリングの実際について具体を伝えるためにワークショップを行った。そして、ワークショップを通して生徒との関わりの中でのキャリア教育を意識した声かけ言葉がけの具体を伝えた。

## 第7節 キャリア教育年間指導計画の作成

キャリア教育全体計画は既に作成されているが、キャリア教育の効果的な実践のためには年間指導計画が必要である。「コミュニケーション力」「自ら考え行動する力」を身につけさせることを特に意識して指導するのにふさわしいと考えられる単元を、各教科の単元の中からピックアップし、キャリア教育年間指導計画の中に設定することで、指導内容にキャリア教育の要素を付加させ、教育的効果を上げること等をねらいとした。

## 第8節 実践研究の結果と考察

### 1 「キャリアノートを振り返って」アンケート

アンケート7項目の中の、どの項目において

も、肯定的意見が80%を超え、生徒はキャリアノートの活用を効果的な取組として捉え実践していたことが分かった。特に「付箋に学びを書く時に、その日の学びと身につけたい力を結びつけることができましたか。」の項目においては肯定的意見が90%に達しており、毎日の根気強い付箋の記入の積み重ねがこのような生徒の意識を高めることにつながっていると考ええる。また、「キャリアノートの取組は、これからの学びに生かされると思いますか。」の項目において「思う」と回答した生徒が半数以上を超えており、キャリアノートの取組が生徒の学習に対しての前向きな気持ちを育てることとなったことが分かる。

### 2 基礎的・汎用的能力を測るアンケート

アンケート12項目のうち、ほぼ全ての項目で肯定的意見が2月に実施したアンケート結果より数値が上昇している。「人間関係形成・社会形成能力」については2月のアンケート結果からさらに高い数値となった。学びの記録において、生徒は特に学校生活の学びとコミュニケーション力の結びつきを見いだし、記入することが多かったことが理由の一つと考えられる。

### 3 成果と課題

生徒は、キャリアノートの活用を通して、普段の学びを意識し、自分に身についた力を実感することができた。今後は、このキャリアノートの活用を年間を通して継続させるとともに、活用する生徒や指導する教員にとって負担感がより少なくなるよう活用方法を改善し、より汎用性を持たせたキャリアノートの開発を進めていきたい。